

ヤマトグループ賛助会員向けニュース 発行部数12万部

ヤマト福祉財団

Yamato Welfare
Foundation

No.6

2005 Spring

NEWS



シリーズ① ヤマト福祉財団賞受賞者は今…

新年度の事業計画

●フィリピンの障がい者雇用視察団11人がスワンカフェ&ベーカリー赤坂店を訪問

一粒の麦から育った福祉の理想郷、麦の郷。 「この街を命あるかぎり見守っていきたい」

ユートピア

財団が障害者の自立支援に著しく貢献している人を顕賞する『ヤマト福祉財団賞』を創設してから五年が経過しました。受賞者の発表、賞の贈呈式は毎年十二月の障害者週間におこなわれ、これまで十二名(内二人は特別賞)の方が受賞されました。そこで今回から受賞年次順に受賞者を訪問し、それぞれの近況や障害者福祉をめぐる最近の社会状況などについて意見を伺うことにしました。題して『受賞者は今……』。第1回目は二〇〇〇年受賞者の一人、和歌山県『麦の郷』の伊藤静美さん(71才)です。



麦の郷障害者
リハビリテーション研究所
所長

伊藤 静美さん

いとう・しずみ

十年間にわたる街頭宣伝

第1回ヤマト福祉財団賞の候補者として伊

和歌山市岩橋の社会福祉法人『麦会』(麦の郷)に伊藤静美さんを訪ねたのはさる二月十八日午後でした。鉛色の冬空からはぼつりぼつりと冷たい雨が落ちていました。伊藤さんは、「むぎ共同作業所」施設長の田村智己さんと同会ソーシャルファームピネル副施設長の森貴孝さんらと玄關まで出迎えて下さいました。かつて過労などから体調をくずされていただけに、健康状態はどうなんだろうと気がかりでしたが笑顔いっぱいとても元気そうでした。

来客用応接室、入所者休憩室、会議室など多目的に使われているらしい大きな部屋に通され、田村、森のお二人とともに『麦の郷』の現況などをいろいろ話してくださいました。

藤静美さんを推薦していたいたのは、同じ和歌山県の社会福祉法人きのか福祉会理事長の南方悦男さんです。南方さんは推薦理由の中で次のように述べています。

伊藤さんは、一九七七年、『麦の郷』の前身である「たつの共同作業所」に指導員として参加、活動する一方、県精神障害者家族会の結成に奔走、とくに和歌山駅前での街頭宣伝を十年間にわたって続け、全国に先駆けて「顔をあげ実名」で運動をする当事者の権利擁護運動を先頭に立ってすすめた。

精神障害者の社会復帰施設を、という行政への要望は、「道路が先や」という返事で追い返され、医療や保健関係者からは「素人が何をする」との批判を浴びながらも運動を続け、一九八九年四月には、精神障害者の社会復帰をすすめる全県キャンペーンを実施し、三千人を超える県民との対話を実現する――。

■ヤマト福祉財団賞とは……

小倉昌男ヤマト福祉財団理事長の発案で二〇〇〇年度に創設され、毎年一回、十二月の障害者週間に原則二名の方に賞を贈っています。賞の趣旨は、共同作業所など障害者施設や企業の現場にあつて障害者の就労や自立支援に著しく貢献している人を選んで顕賞するもので、受賞者の選考方法などは次のとおりです。

◎選考方法

毎年夏、広く全国の障害者福祉関係者に候補者の推薦を求め、これをもとに財団内に設置した「ヤマト福祉財団賞選考委員会」理事長を含め三名で構成)において受賞者を決定します。

◎賞の内容

正賞として、彫刻家・雨宮淳氏(日本芸術院会員)作の特製ブロンズ像『愛』のほか、副賞として賞金百万円を贈ります。





現在の「麦の郷」の中核をなう田村知巳施設長（右）と森貴孝副施設長。

運命的な姉弟との出会い

……それはまだ童顔の残っている十七歳と十六歳の姉弟との出会いでした。その頃わたしは「たつの共同作業所」で半ばボランティアとして働いており、そこへ姉弟がやってきたのです。二人とも精神に障害がありました。夕方、わたしは二人を家に送って行きました。ところが家の中はほとんど真っ暗。奥のほうに姉弟の老いた祖父母がおり、祖父のほうは病気で臥せていました。話をきくと、姉弟の母親は離婚してずっと前に家を出、精神を病む父親も家出して行方知れずだと言います。わたしはこの家はいったいどうなっているんだと思うと同時に慄然としました。心を病んでいる二人を

このままこの家に置いてはいけない、そう考えました。

翌日、わたしは二人を連れて市の保健所へ行き、担当の責任者に事情を説明して二人のこの生活について善処方をお願いしました。すると保健所側は、じゃ、二人を精神病院に入院させるよう手続きしましょう、と言うんです。わたしは、え！とびっくりしました。それはおかしいんじゃないですか、と言いました。二人を悲惨な家庭状況から救うのはもともとと行政の仕事であつて、それは格別重篤な病いでもないのに入院させることではないのです。治療のためではなく世話する人がいないから入院させる、そんなことがあつていいの。保健所というところは入院斡旋機関ですか……。わたしと保健所側のやりとりは激しいものでした。



近代的設備をととのえたクリーニング工場、障害をもつ人たちがいきいきと働いている。

伊藤さんらを中心とするこうした運動の背景には、当時、和歌山県の精神障害者の平均在院日数が全国ワーストワン（八四〇日）の状況にあつたということにもよります。このことは、伊藤さんをしてかくも粘りつよい運動に走らせることになった彼女自身のある体験とも交差します。その体験は、五年前の二〇〇〇年十二月九日、第一回ヤマト福祉財団賞授賞式が東京新宿区の「ホテル海洋」で開かれたとき、受賞者の一人としてあいさつに立った伊藤さんの口から訥々と語られました。そのとき二百人ばかりの人々で埋まった式場は水を打ったように静まり返り、あいさつが終わると大きな拍手がいつまでも続き、感動の波が式場をおおいつくしました。あの体験話を伊藤さんはあらためて語ってくれました。



施設内の一角に、ここで働く精神障害者の人たちがかつて収容されていた精神病院の鉄格子の残骸が記念のため置かれている。あのと時の苦しみを忘れまいぞという通所者の意気込みが伝わってくる。

二人の姉弟はわたしのうしろに隠れるようにして「たつのこがよいよ、たつのこがよいよ」と訴えます。「たつの共同作業所」のことです。

鉄格子の中です。こす精神病院がどんなところか、父親が入院していたのでよく知っているんです。

保健所側は保健婦も加わって二人を入院させるよう言いつけましたが、「イヤです」と言つてわたしは二人を連れて帰りました。よし、この子らの面倒は「たつのこ」でみよう、そう決心したのです。

『麦の郷』発展の歩み

それから伊藤さんの活動が本格化します。ここで「たつのこ」に始まる二十余年の『麦の郷』の発展過程をざっと辿ってみます。



印刷工場内で働く人々。

- ・一九七七年三月、「たつのこ共同作業所」開所。
- ・八五年、「たつのこ」が知的障害者授産施設「くろしお作業所」として開所。
- ・八六年、精神障害者のための共同作業所「いこいの家」が精神障害者家族会「つばさの会」が母体となって開所。
- ・八八年、「くろしお」「いこいの家」「つばさの会」と和歌山県立医大が共同して精神障害者の経済的自立を目的に病院のシーツクリーニングを行う工場を開設。
- ・九〇年、自立工場に隣接して精神障害者援護寮「麦の芽ホーム」と同授産施設「むぎ共同作業所」を合築、これらを総称して「麦の郷」と名づける。
- ・九一年、新たな職場「麦の郷印刷部」がスタート。
- ・九二年、地域で自立した生活を築くための精神障害者グループホーム「麦の郷社員寮」が近隣の民家を借りてオープン。
- ・九四年、「麦の郷」と一体となって精神医療と

ほんまもんの仕事

- リハビリを行う「ももたにクリニック」がオープン。同時に「麦の郷」の実践を理論化し課題提案などを行う機関として「麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所」を設置。
- ・九五年精神障害者地域支援センターを開所。地域支援センターの事業として不登校児童のための支援施設「ハートフルハウス」をオープン。
- ・九九年、高齢者をも対象にした訪問看護ステーションが開所。県精神障害者団体連合会結成。
- ・「ケアセンター麦の郷」を開所。高齢者、障害者宅へのホームヘルプサービスの開始。
- ・二〇〇五年二月、「麦の郷」は、そこに通ってくる障害者が、知的八五名、精神四七名、障害児三五名（合計一六七名。スタッフは二九名（内六名は障害者、総勢三百名近い巨大な「福祉の理想郷」を構築している。

以上のように、当初は一粒の麦に過ぎなかった「たつのこ」が、身体、知的、精神障害の種別を越え、互いに協力し合いながら自立を目ざして躍動し、地域を巻き込み医療の協力も得ながら多角的に拡大発展していったのです。その中で不登校児童やひきこもりの若者、寝たきり高齢者にまで支援事業の手を拡げていくことも注目されます。そうした「麦の郷」の事業活動を主導した中心人物の一人が伊藤静美さんです。

多岐にわたる事業の中でも福祉工場としてとりわけ群を抜いているのがクリーニングと印刷工場の二つです。両事業の売上げ推移を別表

クリーニング業売上げ推移

年度	売上げ実績
2000年	46,899千円
2001年	59,391千円
2002年	67,603千円
2003年	70,874千円

印刷業売上げ推移

年度	売上げ実績
1997年	23,600千円
1998年	35,800千円
1999年	41,500千円
2000年	52,200千円
2001年	42,900千円
2002年	47,200千円
2003年	50,400千円

「麦の郷」が「ほんまもんの仕事をしているのがうれしい」と伊藤さんは言います。ほんまもんの仕事とは、共同作業所などの福祉施設で一般的に行われている刺繍とか封筒貼りといった手内職的な仕事ではなく、機械化された近代

にしたのでご覧ください。ここで働く障害者の給料も時給最低六四五円、月額平均十二万千円と安定しています。



印刷工場内を見回る伊藤静美さん（左）。

的な工場で他の同業者と競い合いながら働き、給料も一般労働者なみにもらえる仕事、をさしています。事実、クリーニングも印刷も競争入札で仕事を取つてきていると言います。

「お客さんから、仕事の仕上がりが悪いとか納期に遅れたとかいって怒られる。そういう体験をうんとつませないと……」と伊藤さん。将来に向けて仕事はさらに拡大を目ざしています。最近、印刷工場を増設するため、経営破綻した信用金庫の建物を買収したそうです。

今の世の中についてどう考えるか、とたずねると、淡々と次のような返事がかえつてきました。

「若者を中心に暗いニュースが多いが、あれはみな現代社会に対する警鐘だと思う。政治の面ではとにかく平和であってほしい。その意味でも憲法九条はぜひ守らなければ……。もう若い人たちの時代ですが、わたし自身としては、この「麦の郷」を命あるかぎり見守っていくつもりです」。

（取材・文 高田三省）

障がい者によるクロネコメール便配達

社会福祉法人 北海道光生会

「知的しょうがい者自立支援センター」わ～くす

知的障がい者を中心に20名在籍 北海道美唄（びばい）市

ヤマトリースから営業ナンバーを借りて、車両の問題を解決。
冬場は、台車代わりに“そり”を使って配達しています。

「わ～くす」横田雅之施設長

北海道でも一番厳しい季節、今年の1月からメール便配達を始めた「わ～くす」さん。始めるようになったきっかけについて、横田雅之施設長にお話を伺いました。「ヤマト運輸さんには、以前からお世話になっていました。封入作業などのお仕事をいただいていたんです。2年くらい前から、そういうことができたらいねと、ヤマト運輸美唄エリア支店長の岸さんが前職だった頃から話していたんです。施設のなかに閉じこもっていないで、どんな外に出て、お客さんと接するようになれば、自立するきっかけにもなりますから。岸さんがエリア支店長になった去年の7月頃からどんどん具体的になってきました。今年の1月にスタートを切ることができました。あえて1番厳しい季節を選んだのは、ここを乗り切れば後はどんどん楽になると考えたのと、二日でも早くスタートしたかったからです。今となつては笑い話なんです。日本の反対側「一番南にある沖縄『ふれあいセンター』」さんがすでに始めていることを全く知らなくて、日本で初の試みだとけっこう意気込んでいました。北海道初というタイトルは確保できましたが（笑）。」

メール便配達を始めるにあたって、なにか問題点はありましたか。「どこもそうかもしれないませんが、営業ナンバーの車の確保ですね。メール便センターまで荷物を取りに行くのに必要です

から。ヤマトリースさんから車をリースしてもらって、リースだ保険だという、面倒な手続きもすべて、岸エリア支店長を通して、やっていただきました。ほんとうに感謝しています。配達は現在3名が担当しています。雪の日は絶対汚さないんだという意識が徹底していて、きちんとビニールに入れて配達しています。今では仕分けから配達まで、すべて障がい者だけで行っています。携帯電話を持ってもらって、何かあったらすぐに電話してもらって対応するようにしています。」

北海道ならではの苦勞、やり方とがありますか。「そうですね、配達に行ったら、その住所の家が雪に埋まっていたという連絡がありまして。誰も住んでいない無人の家だったんです。この前も本州の人と電話で話していたら、そりという犬ぞりを連想するようで、犬はどうして



配達を終えたばかりの竹村巧さんにお話を伺いました。「全部一人でやっています。メール便配達の仕事は楽しいです。この前1日99件配達したので、早く百件を越えたいと思います。お客さんには『くろくさま』と言ってもらえるし、これからメール便配達の仕事をずっと続けていきたいと思っています。」同じく皆川敏明さんにもお話を伺いました。「以前はプレスの仕事をしていましたが、腰を痛めて辞めました。メール便配達の仕事は結構歩くけれど、大丈夫です。」

今日（3月14日取材）は気温マイナス7℃、こ

北海道美唄ではこの季節にしては暖かい方だ

そうです。あえて過酷な季節を選んでメール便

配達を始めた「わ～くす」さん。本誌が発行される頃には、皆さん春めく季節のなか、そりの代わりに自転車に乗って颯爽と配達されていることでしょう。



配達終了後、作業所でデータ処理する皆川敏明さん（左）、竹村巧さん



▲北海道テレビ放送にメール便配達取材されました



▶そりを引っ張って配達する皆川敏明さん

財団の平成17年度事業計画および予算について

3月1日開催の、「理事会、評議員会」で当財団の平成17年度（平成17年4月1日～平成18年3月31日）の事業計画と予算が決定されました。その概要をお知らせします。

1、助成事業（80,000千円）

- (1) 障がいのある大学生に対する奨学金の供与。
- (2) 障がい者施設等の整備・改善・備品購入等に対する助成。
- (3) 障がい者福祉に関する各種講演会、研修事業等に対する助成。
- (4) 障がい者福祉に関する各種出版、啓発活動等に関する助成。
- (5) 障がい者福祉に関する各種調査、研究事業に対する助成。
- (6) 障がい者を中心とする各種文化事業、スポーツ活動等における助成。

大学生に対する奨学金の供与は、現在、34名が対象になっていますが、16年度で12名が卒業するため、通常ですとそのまま12名の補充と



「理事会、評議員会」 小倉理事長（中央） 評議員会議長青木大祐氏（左）

なります。選考の基準は、障がいの等級、保護者の収入、家庭環境、等を勘案して決めてきましたが、今年度から、本人の学習意欲を確認するため、作文の提出を求めています。尚、奨学金は月額5万円（年、60万円）で返済の必要はありません。

他の助成金については、申請にもとづいて財団の支部長と会社の社会貢献部の協力をあおぎ、ヒアリングを行っています。

応募件数も年々増えてきて、昨年度の助成金の応募は69名あり、そのうち11名が選ばれました。

一般助成は1,522件の応募のうち、決定したのは94件でした。

今年度も相当数の応募が見込まれ、選考に難航が予想されますが、6月中に開催される「選考委員会」で慎重審議の結果決定される事になっています。

2、自主事業（71,950千円）

当財団の事業は大きくわけて、助成事業と自主事業の二つになります。助成事業は前に述べましたが、この自主事業こそがヤマト福祉財団の特色を最もよく現しているといえます。

パワーアップセミナーによる施設経営の支援、ヤマト福祉財団賞の贈呈・広報と啓発活動によるノーマライゼーションの推進、スワンベーカーリーチェーンによる雇用の実践、小規模作業所・授産施設によるメール便の取り組み支援による雇用の創出を自主事業の中核とし実施します。更にスワンネット・スワン製炭による施設に

おける商品開発・販路拡大の支援、ヤマト自立センターの設立支援、日本障害者フォーラムの運営支援、その他団体の行事支援も行っていくこととします。

(1) 「パワーアップセミナー」の開催

これまでパワーアップセミナーは、小規模作業所の職員に意識改革を促すことを主たる目的として一定の成果をあげてきました。従来から「二万円からの脱却」をテーマにしてきましたが、今年度はより実践的な要素を取り入れてステップアップした内容で小規模作業所の商品開発・障害者の職域開発・経営改善を追求することとします。

開催地については、札幌、福岡、東京（第1回）、大阪、仙台、丸亀、東京（第2回）、滋賀の8箇所で行い、240名の参加者を募集し、実施します。



自主事業のひとつパワーアップセミナー

収支予算書

(平成17年4月1日～平成18年3月31日)
(平成17年度)

(単位:千円)

科 目	予算額
I 収入の部	
1、基本財産運用収入	82,250
(1) 基本財産株式配当	60,800
(2) 基本財産国債利息	21,440
(3) 基本財産定期預金利息	10
2、寄付金収入	38,000
(1) 運用財産	38,000
(2) 基本財産指定・(繰入増加)	0
3、賛助会費収入	53,000
4、セミナー受講料収入	1,200
5、雑収入	210
(1) 受取利息	10
(2) 雑収入	200
当期収入合計 (A)	174,660
前期繰越収支差額	16,890
収入合計 (B)	191,550
II 支出の部	
1、事業費	157,950
(1) 自立・社会参加の活動に対する助成	80,000
①奨学金供与	20,400
②会議・講演・研修事業助成	1,000
③出版・啓発活動助成	2,000
④調査・研究事業助成	2,000
⑤文化事業・スポーツ活動助成	3,000
⑥施設の改善・修理・備品等の整備助成	51,600
(2) 自主事業	71,950
①小規模作業所スタッフ教育研修費	36,000
(会場費)	21,000
(参加者交通費)	2,140
(講師諸費)	6,590
(運営費)	1,070
(委託費)	4,700
(雑費)	500
②雇用促進事業費	4,550
③啓発事業費	2,500
科 目	予算額
④広報事業費	16,500
(取材費)	500
(印刷費)	7,200
(制作費)	5,000
(発送費)	1,100
(雑費)	300
(ホームページ運営費)	2,400
⑤ノーマライゼーションの推進(表彰)	6,500
⑥専門家による個別指導の実施	5,900
(3) 調査・会議費	1,500
①調査費	1,000
②選考委員会費	500
(4) その他事業	4,500
①共催分担金	3,500
②パンフレット作成費	1,000
2、管理費	26,600
(1) 管理費	26,600
①人件費	10,500
②厚生福利費	0
③旅費	600
④通信運搬費	1,100
⑤備品消耗品費	600
⑥図書印刷費	1,500
⑦事務室維持費	4,000
⑧事務機器賃借料	1,000
⑨会議費	1,500
⑩賦課金	100
⑪賛助会員事務費	400
⑫租税公課	0
⑬支払手数料	400
⑭雑費	1,500
⑮支部運営費	3,400
3、基本財産繰入	0
4、予備費	7,000
当期支出合計 (C)	191,550
当期収支差額 (A)-(C)	△ 16,890
次期繰越収支差額 (B)-(C)	0



全国支部事務長会議

(4) 広報事業
財団ニュースを年4回発行し、財団の事業活

(3) 啓発事業
一般向けに啓発行事を企画して、障害者の職業能力について啓発を行います。製パン・接客に関する職業能力の啓発を銀座・赤坂の雇用現場にて行います。銀座歩行者天国での製パン・メール便配達に関する職業能力啓発行事を実施します。その他にも行事を中心に啓発事業を行います。

(2) 障害者雇用の推進
スワンベーカーリーの研修を充実させ、障害者雇用の確保に努めます。特にチェーン店の指導者研修と巡回指導に重点を置き、店舗運営の充実を図ることとします。また、作業所・施設によるメール便の取り組みを推進して障害者雇用の拡大を図ります。

(6) 専門家による指導の実施
スワンベーカーリー本部およびスワンベーカーリーチェーンに対してコンサルタントによる経営指導(中小企業診断士)を行います。また、パワーアップセミナーにおいて、事業所の計数管理の指導研修を専門家によって行います。また、炭窯助成を行った施設に対して、炭焼き技能を修得してもらうため専門家を派遣し指導します。

(5) ノーマライゼーションの推進
障害者就労施設や一般企業等にあつて、障害者の就労支援、職業指導、処遇改善などの面で功労著しく、広く敬愛的となっている個人を対象に本年も「ヤマト福祉財団賞」を贈呈します。

助成金の申請者の現地訪問調査を行うほか、助成終了先についても、成果の確認を行います。また、助成金選考委員会およびヤマト福祉財団賞選考委員会を運営します。

3、調査・会議

を派遣し指導します。

4、その他事業

大阪成蹊大学の山本セミが主催してきた経営バラリンピックについて本年も後援するほか、昨年10月に設立された日本障害者フォーラムの事業については、特に障害者の権利条約の策定推進のための事業を支援します。また、きょううさんの全国大会についても他の助成財団と連携をとりながら支援助成します。

長野スペシャル オリンピックスに 協力

当財団も2月26日～3月5日まで開催された、2005年スペシャルオリンピックス冬季世界大会に協力しました。

スペシャルオリンピックスは、知的発達障がいのあるアスリートの大会で、今回初めてアジアで開催され、500万人トーチラン（聖火リレー）など新聞、テレビでも大きく取り上げられました。



「メダカ大作戦inキャッセ羽生」 障がい者が竹炭で水質浄化に挑戦

スワン製炭の指導のもとに炭焼き事業を行っている「空と雲の家福祉作業所」は、竹炭を利用した池の水質浄化に、取り組んでいます。社会福祉法人「社会福祉事業研究開発基金」の助成金制度に応募して、全国20～30件の中から、見事選ばれて、この事業が実現しました。埼玉県羽生市の農林公園「キャッセ羽生」にある池の水を一度抜いて、底にたまった泥などをさらい、水質浄化用として特別に焼いた竹炭と金網でできた「浄化装置」を設置、その後で水を戻してメダカを放流する計画です。障がい者たちによる地域貢献と環



境保護の取り組みとして、新聞の地域版でも紹介されました。この事業に取り組んでいる知的障がいの皆さんは、「私たちの活動が地域の役に立つんだ」「メダカの住める池にするんだ」と希望に胸ふくらませ、がんばっています。

伊東屋様がカレンダーを寄贈 チャリティバザーを開催

1月に伊東屋様からカレンダーを寄贈していただき、全国11支部でチャリティバザーを開催しました。売上金368,878円を当財団に寄付していただきました。ありがとうございました。



NEWS & TOPICS



外食アワード2004を 小倉理事長が受賞

外食産業記者会が創立25周年を記念して、外食関係者を表彰する「外食アワード」を創設、第1回目の授賞式が2月10日行われ、当財団小倉理事長が「外食アワード2004」社会貢献部門を受賞しました。

表彰理由は、日本の福祉の立ち遅れが一向に改善されない中、ヤマト福祉財団が開発・展開する「スワンカフェ&ベーカリー」は、障がい者と健常者の給与格差の解消に尽力。福祉施設という位置づけでなく、あくまで外食市場の厳しい競争の中で勝ち残っている魅

力的な店として営業。グループ店が着実に増えている。



スワンの日、スタート

1号店の銀座店がオープンした日にちなんで、2月から毎月16日、スワンの日を試験的に銀座店、赤坂店、十条店、福井店でスタートさせました。630円以上お買いあげのお客さまに、もれなくオリジナルのスワンマグカップを差しあげています。店頭には「スワンの日」ポスターを貼って、パンの販売促進に役立っています。



スワンベーカリー深谷店が オープンしました。

open!

4月17日(日)に埼玉県では初めてのスワンベーカリーになる、深谷店がオープンしました。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

スワンベーカリー深谷店

埼玉県深谷市宿根524-1 Tel.048-551-4555 高崎線深谷駅より車で12分

スワンカフェ&ベーカリーヒューマン心斎橋店、 スワンベーカリーKOBÉ店が独立

スワンカフェ&ベーカリーヒューマン心斎橋店は、4月1日よりヒューマンベーカリー&カフェ心斎橋店として独立して運営されます。スワンベーカリーKOBÉ店も4月1日より独立して運営されます。今後とも両店をお引き立て下さいますよう、よろしくお願いいたします。

フィリピンの福祉関係者11名がスワン赤坂店を視察。

JICA(独立行政法人 国際協力機構)による海外協力事業の一環として、フィリピンの福祉関係者総勢11名が3月10日、スワンカフェ & ベーカリー赤坂店を視察に訪れました。

マリア ルイサ ジジェット S.インベリアル地域雇用局局長を団長とした、官民合同の障がい者雇用促進強化のための視察団です。フィリピンでは身体障がい者の雇

用はある程度進んでいるものの、知的障がい者の雇用はまだまだ厳しい状況で、大勢の知的障がい者がイキイキと働いているスワンをぜひ視察したいという、強い要望があって実現しました。今回の視察団は、障がい担当の公務員、労働組合幹部、NGO(非政府組織)スタッフ、障がい者を雇用しているハンバーガーショップチェーンの訓練官などで構成されています。



「東京の生活費は?障がい者の給料は?」「父母のバックアップは?」「障がい者の通勤は?」「公的な補助はあるのか?」「仕事のトレーニングは?」「どういう問題が起こったか?起こったときの対処は?」「店の販売マーケティングは?」「フィリピンで福祉財団を作りたいがヤマト福祉財団の理念は?」「日本

の企業全体での障がい者雇用は?」など皆さんそれぞれの立場から、矢継ぎ早に質問されていました。

「障がい者の定着率は?」という質問に、赤坂店岡本店長が「開店以来3年、障がい者で辞めた人は一人もいません」と答えると、視察団全員が「アメージング!」とたいへん驚かれていました。



奨学金 ありがとう。

名城大学 法学部 法学科
平成17年3月 卒業
水野 義幸



この3月に大学を卒業した障がい者の 水野さんから、感謝の手紙が届きました。

4年間の大学生活が終わろうとしています。4年前に抱いていた不安はいつの間にか楽しみに変わっていました。そうであつたからこそ、4年間の月日があつたという間に思えるのでしょうか。

大学で国際政治を学びたいという希望はついに叶えられ、2年次の頃には大学院進学という新たな目標が明確になりました。3、4年次の国際政治学ゼミでは、ゼミ長としてゼミ全体の研究成果をまとめることや後輩ゼミ生の研究サポートといった、学業とは別の役割を指導教授から与えられ、想像以上に多くの勉強をさせて頂きました。今までに得たことを大学院生としていかに生かすかが次の課題の1つとなりました。

学業成績だけを見ても、4年間で履修した58科目のうちおよそ9割の科目で「優」を修めることができました。そもそも大学での勉強についていけるかが心配であつたことが嘘のようです。その甲斐あつてか、昨年の3月の名城大の卒業式では「在学生代表」として送辞を読むという、大変名誉な経験をさせていただくことができました。

友人との交流も意義深いものでした。高校時代以上に様々な価値観を持った友人達との会話の1つ1つがとても刺激があり、自分の持つ世界を拡げることができたように思います。特に最後の1年は、卒業ということも意識下にあつたからかもしれませんが、実に多くのことを語り合えたように思います。彼らの存在なくして私の大学生活が語れないのは当然のことですが、本当に貴重な存在です。

(中略)

最後になりましたが、奨学金という形で私の大学生活を支援して頂いたことに感謝致します。身体障害者のいる母子家庭という、一般的に言って苦しい家計ではありましたが、貴財団のご協力のおかげで何とか明るく過ごしてこれました。これから5年間、感謝の気持ちを忘れずに研究生活に勤しめようと思います。本当にありがとうございました。

職場めぐり

埼玉主管支店埼玉ベース店

この4月に、養護学校を卒業したばかりの新人2名が入社、総勢10名の障がい者が元気よく働いています。

がんばって
ますか!

障がい者の
職場めぐり

去年8月に車の免許を取得、念願の車通勤をしている軽部徳之さん。「中古ですけど日産プレシアを現金で買いました。自分で働いて貯めたお金です。通勤時には大好きな浜崎あゆみのCDを聴いています。フォークリフトの免許も12月に取って、メール便のパレットを運ぶ仕事もしています。」

入社2年目、養護学校の先生の薦めで入社した本間丸志さん。「最初は流して、いい物といけない物との区別がつかなかった。いまは箱の色で区別しています。」
昨年11月に開催された第4回全国障害者スポーツ大会「彩の国まごころ大会」のバスケットボール県代表として出場した元木和也さんは、さいたま市選手団の旗手もつとめ、新聞の地域版でも写真入りで大きく紹介されました。「大会では残念ながら負けちゃいました。ふだんは地元のバスケットチーム・フューチャーズでやっています。仕事では、現場判断ができるようになりました。シューターでボックスがいっぱいになったときとか、自分で判断して対応しています。」

小規模作業所に通っていた金子裕紀さんは社会参加をめざして、今年の1月から働きだして、現在研修中です。「流しの仕事とか先輩がいろいろ教えてくれます。早く先輩たちと同じヤマト運輸の制服を着れるようになって、働きたいと思います。好きなことは電車に乗ったり見たりすることです。休みの日にはカメラ付き携帯を持って大宮駅に行きます。」

この春には養護学校を卒業したばかりの新人2名が入社してきました。後輩たちの目標として、これからもがんばってください。



左から軽部徳之さん、本間丸志さん、元木和也さん、金子裕紀さん。

swan net information



広島県呉市「ひかり作業所」
(精神障がい者在籍)
ふれあい会館内1階での無人販売(売上金と販売数量はピッタリ一致しています)



広島市南区「未来館」
(身体・知的障がい者在籍)
商店街の一角にあり、のぼりを立てているだけで売れ始めました。自主製品も売上げが増えました。

中国支部が1ヶ月間で
12ヶ所の共同作業所と、
スワンネットの野菜販売を契約。

スワン
ネット

当財団の中国支部とスワンネットの連携が、軌道に乗りました。その方法について、竹下憲雄事務長に語ってもらいました。

まずは中国地方5県にある共同作業所をリストアップ。パワーアップセミナー、福祉助成など当財団と接点があるかチェック、可能性のあるところに電話で「案内しました。興味を持っていただいた作業所にはクロネコメール便で関係資料を送付、詳しく説明しました。あくまでも正攻法で根気よく案内した結果、1ヶ月間で12ヶ所の共同作業所と契約できました。広島市内については「広島市授産事業振興センター」のバックアップをいただき、契約に拍車がかかりました。

野菜販売開始後のフォローは、スワンネットと情報交換しながら、折々に電話して販売状況をお尋ねしたり、最新情報を提供。近くまで行ったときには訪問して「要望などをお聞きし、スワンネットに報告しています。」

従来はいわゆる「自主製品」を中心に店舗販売、バザーなどが中心。商品ラインナップもいつも同じで頭打ちになっていたところに、スワンネットの野菜が加わって、相乗効果が生まれたとたいへん喜ばれています。スワンネットのジャガイモ、タマネギは1袋100円という値段もさることながら、「おいしい」からお客さまに喜んでいただければ、口コミでだんだん販売量が増えているとのこと。さらに自主製品も以前よりも売れるようになったそうです。なによりも一般のお客さまとふれあう機会が増えたと、皆さんに感謝されました。

写真家 平間至さんのご協力により、あの「ミーカフェ」を実現！

5月16日(月)～5月28日(土)

スワンカフェ銀座、スワンベーカリー銀座で同時開催

若者の圧倒的な支持を集めている写真家 平間至さんの写真展「捨て猫ミーちゃん」の時に「こんな空間でお茶が飲めたら」というお客さまの声で実現。西荻窪・神戸など入店待ちの行列ができるほど幻の人気カフェ「ミーカフェ」が、平間さんの全面的なご協力により、期間限定で実現します！スワンの理念に賛同していただき、快く引き受けてくださった平間さん、そして愛猫「ミーちゃん」ありがとうございます。



期間限定！

「ミーカフェ」特別メニューを実施します。

スワンカフェではミーちゃんにちなんだ特別メニューを、またベーカリーでもミーちゃんのかわいいパンを用意してお待ちしています。もちろん、Tシャツ、ポストカード、ステッカーなどミーちゃんグッズも。



平間至 ひらまいたる

写真家。1963年、宮城県塩竈市生まれ。87年、日本大学芸術学部写真科卒業。TOWER RECORDS「NO MUSIC, NO LIFE」シリーズなど広告、CDジャケット写真を中心に幅広い分野で活躍。

写真集：2001年『捨て猫ミーちゃん』、2002年『ミーちゃんといっしょ』、2004年『アイ・ラブ・ミーちゃん』（全て河出書房新社）

<http://www.itaru-jet.com/>（最新のミーちゃんも見ることができます）



スワンカフェ スタッフのご紹介



白井 元
マネージャー
ニューヨークのカフェ感覚で、楽しい“ひととき”をどうぞ。癒しの空間スワンカフェをよろしくお願いします。



早稲田 真希
フロア担当
ランチからディナータイムは私が担当します。笑顔で皆さまのご来店をお待ちしています。



鈴木 敦士
シェフ
料理は目と舌で楽しんでいただけることを心がけています。新作メニューにも力を入れています。



スワンカフェのスタッフ

モーニング、ランチ、ディナーに新メニュー！



スワンカフェ銀座店

東京都中央区銀座2-12-16 Tel.03-5148-5860 Fax.03-3543-1068

営業時間：月～木 7:30～23:00 / 金 7:30～翌2:00 / 土 11:00～18:00 定休日：日・祝祭日



ART Information

ヤマトロジスティクス(株)の美術品輸送活動

さわやかな緑の季節、
上野の「国立西洋美術館」に
いきませんか？

光と闇の世界＝ジョルジュ・ド・ラ・トール展を
開催しています。5月29日(日)まで



①〈ダイヤのエースを持ついかさま師〉油絵/ルーヴル美術館蔵 ②〈蜜をとる女〉油絵/ナシー、ロレーヌ博物館蔵 ③〈聖トマス〉油絵/国立西洋美術館蔵

17世紀のフランスの画家、ジョルジュ・ド・ラ・トールは世界的に有名であるにもかかわらず、日本ではあまり知られていません。

昼の光の中であれ、夜の情景であれ、常に光のもたらす効果に鋭敏な感受性を見せるその画面は静けさと深い精神性に満ち、表された人物像は光と闇の対比の中に的確な色彩の表現を繰り広げて、きわめて近代的な造形をみせています。20世紀に再評価された作品の真筆は世界に40点ほどしか残っておりませんが今回の展覧会はその真筆の約半数とアトリエなどでの模作等が展示されています。尚、この展覧会はヤマトグループの「ヤマトロジステックス(株)」美術品輸送が担当しています。

○常設展もご覧になることをおすすめします。

観覧料	当日	団体
一般	1,100円	800円
大学生	750円	410円
高校生	650円	350円

※団体は20名以上。中学生以下無料。

●交通案内
JR上野駅下車、公園口から徒歩1分
京成電鉄上野駅下車徒歩7分
東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅下車徒歩8分

●展覧会案内
ハローダイヤル 03-5777-8600
国立西洋美術館ホームページ
<http://www.nmwa.go.jp/>

心身障害者とその介護者1名は無料。
(障害者手帳などをご提示ください。)

休館日:月曜日(ただし5月2日は開館)
開館時間:午前9時30分～午後5時30分
(毎週金曜日は午後8時まで開館、入館は開館30分前まで)



ヤマト福祉財団全国支部連絡先(ヤマト運輸(株)内)

支部	事務長	連絡先
北海道支部	加藤房男	TEL.011-891-5040
東北支部	平井 忠	TEL.022-374-8065
東京支部	窪寺敏幸	TEL.03-5564-3705
関東支部	安田 裕	TEL.03-3471-9016
北信越支部	相場孝志	TEL.025-231-9512
中部支部	内田辰吾	TEL.0561-61-5111

支部	事務長	連絡先
関西支部	富川宣臣	TEL.06-6682-7127
中国支部	竹下憲雄	TEL.082-849-1451
四国支部	柳島憲行	TEL.0877-46-7875
九州支部	目野和彦	TEL.092-931-3340
沖縄支部	六笠保裕	TEL.098-859-2811



北信越支部に
相場 孝志
新事務長が就任

加藤 泰男事務長お疲れさまでした。新しく相場 孝志事務長が就任しました。よろしく願います。



中部支部に
内田 辰吾
新事務長が就任

黒沢 一誠事務長お疲れさまでした。新しく内田 辰吾事務長が就任しました。よろしく願います。

賛助会員 個人51,090人 法人ヤマトグループ54社(2005年3月31日現在)

古紙配合率100%の再生紙とアメリカ大豆協会認定の大豆油インクを使用しています。

